

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500035		
法人名	ライフサポート安心企業組合		
事業所名	グループホーム みたけ		
所在地	岡山県笠岡市西大島3253番地		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390500035-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

注意:みたけの自己評価は全職員個々に記入したものを一つに集計しています(今回は8名が評価)。そのため、項目によっては複数の記載があったり、内容の方向性が真逆になっていることもあります。それは職員個々の意見を尊重し記載したためです。重複したり、似かよった意見はひとつにまとめています。

・地域のイベントに参加し地域の方々と触れ合いを大切にしている。三食手作りの食事を提供している。入居者と散歩、外出、2日に1回の買物。家事療法と生活リハビリ(洗濯干し、掃除、調理、盛り付け食器拭き、おしぼり巻き)などをしていただいている。3か月に1度ご家族へ介護職員が手紙を書いている。・旬の食材を生かした手作りの料理。自家製ヨーグルトの提供。生活リハビリ、買物、家事参加によりADLの低下予防と共に入居者様とのコミュニケーションに努めている。・年1回のハイキング・入居者様と一緒に買物に出かけ調理、包丁、盛り付け、食器の片付けをし、同じ料理を職員も食べている。手作りのヨーグルトにフルーツをたっぷり入れ、夏はゼリーを追加している。コーヒーやスポーツドリンクを召し上がっていただき水分量に配慮している。毎日の散歩支援や気分転換に地域の方々とコミュニケーション。地域の行事への参加。外部からの催し、お楽しみ会、演芸。花見、ピクニック、花火大会、ベランダでティータイムやハンパイクング。誕生日会、クリスマス会、忘年会。筋力トレーニングなど新しく追加したレクリエーション。チームワークのとれた職員。・健康維持と健康管理。体力維持と筋力の維持。体調管理と排便排尿の管理。地域密着型施設への思考。家事療法の実践。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長は毎年職員一人ひとりの面談を実施し、意見や要望を聞いている。出された意見は、必ず主任やベテラン職員に相談してから今後の対応策を決めている。今回の面談では、「接遇面を強化した方が良いのではないか」との意見が出た。職員会議で話し合い、不適切評価シートを作成し、自己・他己評価を実施して、自分達の言動を振り返ってもらっている。理念に「最後まで共に歩む」を掲げ看取り支援を行っている。施設長は、「終末期の支援をさせてもらうという事は、家族が事業所を信頼しているという事」だと誇りに思っており、欲しいと伝えている。職員は、終末期の利用者には、好物を食べられるだけ食べてもらい、入浴支援や排泄支援を行い、人間らしい生活を最期までお手伝いしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所に掲示されており、理念を共有して実践できるように心がけている。 ・理念が実践できるように心がけているが難しい。	理念である「自立・自律」を目指し、利用者に家事を手伝ってもらったり、レクリエーションに参加してもらったりしている。また時間を設けては、利用者と一緒に廊下を歩き、寝たきりにならないように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近くの小・中学校のオープンスクールや運動会への参加している。 ・地域のサロンに参加し地域とのつながりを持つようにしている。 ・散歩では近所の方と挨拶や会話を交わし、コミュニケーションをとっている。	日常的に散歩に出掛け、近所の人達とお喋りを楽しんだり、散歩中の犬を撫でさせてもらったりしている。大島いきいきサロンの会員になり、利用者と一緒に行事に参加し、地域の人達との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の人々から相談があれば、いつでも対応できるように準備は出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で出た意見は真摯に受け止め、グループホーム(以下、「GH」と記載する)の運営に取り組んでいる。	隣接の小規模多機能ホームと合同で運営推進会議を実施している。事業所の状況を報告し、会議メンバーから素直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市が開催する研修会等へ積極的に参加している。 ・運営推進会議を通してGHの実情を伝えている。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員だけではなく、市の担当者も参加してくれ、色々と相談等にも応じてもらえる協力関係が築けている。今年度は、市が主催する地域密着フォーラムに利用者と職員が一緒に参加し交流を深めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての知識は会議などで話し合い、スタッフ共通の認識を深め、ケアに取り組んでいる。 ・日中は玄関の施錠を行っていない。 ・夜間は防犯のため施錠している。	職員会議にて施設長は具体的な事例を含め説明し、「身体拘束はしていないか」と職員に問い掛け、行動を振り返ってもらっている。職員同士も、安全を確保するための行為が、拘束に該当しないかどうか互いに確認しながら支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・会議などで話し合い、虐待防止の知識を高め、共通意識を持って業務にあたっている。 ・接遇で相手に思いやりの心を持って気を配ることで、会議でも話題になり、再確認できた。 ・介護者のモラル資質、人間性の問題 ・職員からの虐待は行ってないが入居者様からの暴力はたまにある。		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度の研修に以前参加した。・制度は理解できない部分が多いので、これから研修に参加したい。・スタッフ全員成年後見制度の研修に参加している。・入居者様に制度を利用されている方がいらっしゃるの少しは理解している。・まだまだ理解が浅いので勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結、解約又は改定等の際は、十分に説明を行い、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議へご家族に参加して頂き、意見を伺っている。	家族には手紙や訪問時に問いかけ、なんでも言ってもらえる関係作りに努めている。面会時には、日常の様子を撮影したアルバムを見せながら近況を報告し、要望を確認している。家族から出た要望は介護記録に記載し、全員で把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議等で提案をしたり、提案を聞く機会があり、その都度、介護や業務に関する意見を反映している。・職員の個別面談で相談したり、希望休など優先的に入れてもらえる。・月1回の会議で意見を話し合っている。反映が直ちに行われるかは不明。・会議等で職員の意見を聞く機会を設けていただき、介護や業務に関する意見を反映している。	施設長は年1回個人面談を実施し、職員の話しをじっくり聞いている。仕事に対する要望等だけを聞くのではなく、家族の状況も確認し、働きやすい職場作りを目指している。今年度は「接遇面が弱い」との意見が出た為、不適切評価シートを作成し、職員に自己、他己評価をしてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・リフレッシュ休暇がある。・休みの希望や有給休暇は希望通りに取得できている。・職場環境や働き方などについて職員面談で意見や要望の確認をしている。・現在に合った業務に沿っているかわからないことが多い。業務命令的なものが不明な点が多い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・自由に参加できるよう案内していただいたり、参加したスタッフの発表も聞いて良いと思う。・研修の案内が掲示してあり、希望すれば受講できる。・研修に参加した職員は会議にて報告し、知識の共有化を図っている。・職員を育てることは現在は難しいと思う。個々が自己啓発に取り組むべき。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・以前他の職員と比較評価されたので、他施設との交流はしたくない。・隣接する小規模多機能型事業所とは年数回交流がある。・研修の場では同業者と接するが顔なじみでないので、形ばかりであまりためにならない。併設している小多機との交流が良いと思う。・認知症普及啓発会で同業者と協力してパネル展示しネットワーク作りに取り組んだ。・他施設との交流はほとんどない。・他施設のやり方でみたけに生かせる創意工夫や気づきがあるかもしれないと思う。・機会があれば対応についてなど意見交換がしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・コミュニケーションをとり、できるだけ要望にこたえられるよう努力している。・入居当初は要望や不安がわからず、お互いに混乱があると思うが、職員同士意見を出し合い良い方向へ努めている。・手さぐりではあるが少しずつ関係づくりを深めている。・要望に答えられるようできるだけ話をして気持ちに寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時に近況報告をしたりして会話するようにし信頼関係づくりに努めている。・管理者聞きその内容を職員全員で共有できていると思う。・ご家族の話はしっかり聞くよう努めており、聞いた情報は職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人とご家族の情報からご本人にあった支援が提供できるようにしている。・ご本人とご家族としっかり話し合い統一したサービスができるよう努力している。・ケアマネと管理者がその都度必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活リハビリや散歩など個々に合ったことをして頂き、共同生活をしながら信頼関係を築けるように努めている。・家事を一緒にして頂きありがたうございますと伝えている。・生活リハビリや散歩などを通してコミュニケーションをとり信頼関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時には近況報告し、写真を見ていただき、3カ月に1回は手紙をしたため、コミュニケーションをとって明るく対応している。・誕生会を行い、ご家族に参加を要望し、共にお祝いしている。・表向きは共に支えられていると感じるご家族はいらっしゃるが、本心はわからない。・うわべだけでなく言いにくいことも言っていく必要を感じる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・手紙や電話の要望があればその都度対応できるようにしている。・友人の方たちの面会や電話を取り次いでいる。・誕生日会にはご家族の参加もある。・面会の制限なくできている。	利用者の誕生日会を実施する時は、事前に家族に予定を問合せしてから日程を決め、参加してもらっている。プレゼントの色紙には、家族からのお祝いメッセージも書いてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う方同士が近くに座るように配慮している。・気分良く過ごして頂くようにしている。・孤立しているような方がいたら、職員が会話をするなど対応している。・入居者様同士がトラブルになると職員が間へ入る。・孤独が好きの方もいらっしゃるが気の合う方と隣席にしたり買い物や散歩などに出かけている。・リビングで過ごして頂いているが入居者様同士の会話は少ない。		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了しても、要望があれば相談に応じる体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・思いや意向の把握に努め、可能なことは実現できるようにしている。・居室にお孫さんの写真を置かれている。・できるだけ入居者様の希望は叶えられるよう努力している。・困難な場合は、個々に対応したり、周りの職員を見習う。・他の職員に相談している。	利用者の傍らに座り話しかけ、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、医師に相談したり、前回利用していたケアマネジャーに対応の仕方を教えてもらったりしたこともある。利用者が各々の居室に戻り始める夕方には、寂しがり屋の利用者が不安にならない様、側に寄り添う等の対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に情報を把握し、職員で共有している。・毎週ご家族と外出されたり、自宅へ帰られている方がいる。・情報は個人ファイルに記入されており職員はいつでも閲覧可能。・家族、本人様の会話の中から情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日のバイタルチェックなどで体調に気を配り、他の職員と申し送りなどを通して情報共有に努めている。・日々入居者様を観察し、異常を感じたらすぐに管理者へ報告している。・長時間居室におられる方には声かけし、状況に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月、ケアカンファレンスを実施し、その都度迅速に個々の入居者様に対応したケアを提供している。・会議に全ては反映できているかはわからない。	ケアマネジャーは毎月請求書を送付する際、手紙に利用者様の様子と「何か気づいた点があればお気軽に連絡下さい」と書いて、何でも言ってもらえる関係作りを努めている。介護計画を作成する際は、利用者様の様子を職員から聞き取りして、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録に記入し、申し送りを通して、職員間で情報共有している。・介護記録とは別に、申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・食事形態の変更など、入居者様ひとりひとりに応じたサービス提供をしている。・病院への通院、往診などの支援を行っている。・病院受診とたまのドライブぐらいしかない。・看取りについての今後の取組みについて方向性を明確にすべきではないか。		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事(小中学校の運動会や学芸祭やオープンスクール、地域のサロン、各種展覧会などetc...)に参加しており、買物へも入居者様と一緒にいる。・学生のボランティアを受け入れている。・訪問美容を利用している。入居者様に合った髪型にしてもらえる所が良いと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・連携の取れた医療機関にて、通院と往診を行い、治療や症状の改善などを旨し、適切な医療を受けられるように支援している。・薬局と適切な相談が出来ている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また事業所は複数の医療機関と連携を図り、利用者の症状に合った提携医を案内し、通院支援をしている。介護記録に先生から言われた内容を記載し、情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職との情報交換を行い、受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・近隣の医療機関とは折に触れ連絡を取り合っている。・医療機関とは入退院時にカンファレンスを行い、連携をとるようにしている。・入院時、書類を作り提出している。ご家族の要望を重視し添うよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族の意向を伺い、看取り介護を行ったケースがある。・看取り介護を行っている時は、ホーム内のカンファレンスでも議題として挙げ、職員間で共通認識を持って取り組むようにしている。・困難な場合もある。	「最後まで共に歩む」を理念に掲げ、入居時に事業所が対応し得る最大の支援について説明を行っている。重度化した場合は、家族に随時意思を確認しながら、安心して納得した最後が迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防機関の行う救急救命講習をほぼ全職員が受講した。・緊急時の個人情報カードを作成し、連絡対応は迅速にできている。・個々に対応が違っても急変や事故発生時には管理者へ連絡するとともに適切な初期対応を行う。・個人的には実践力不足なのでまだまだ学びたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を入居者様全員と職員と一緒に参加し、行っている。・避難訓練をビデオに撮ることのできる場には職員も共有し身につけ反省点も理解できる。・運営推進会議の委員にも参加してもらった。・入居者様一人一人の避難方法を全職員で確認し身につける。・日中と夜間を想定し行っている。	岩手県の水害で起こった出来事を教訓に、年に1度水害の避難訓練を実施している。後、夜間を想定した訓練を実施し、短時間で避難させることを目標にしている。「人命が一番大事である」との考えの基、利用者を避難させることを優先している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自分自身の心のありようを毎日自分で認識し、対応に当たり、自分ができる最高の対応に努める。・時々口調がきつくなることがあるので気をつけていきたい。・誇りを損わない声かけを行っているが意思疎通が困難である人もいる。・入居者様が不快にならないように優しい口調や丁寧な言葉遣いを心がけている。・気をつけた声かけに努めているが無意識に言葉がきつかったようで指摘を受けた。方言を含め言葉に注意したい。 ・優しい口調を心がけているが時には後で反省することもある。 ・難聴の方には筆談を行う。	今年接遇面に力を入れたいと考えている。施設長は主に以下の2点を指摘した。方言は相手にきつい印象を与えてしまう為、気をつけながら会話をしたい。裸足で歩いた方が転倒防止になると考えていた職員には、他の人と違う格好は尊厳を無視した対応になっていないかと伝え、靴底を工夫し対応した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・できるだけ本人の意向に添えるように努めている。 ・入居者様が希望を言えない方が多いので自己決定できない場合があり職員が行っている希望通りできていない。 ・自己決定できる入居者様は意向に沿うよう努める、自己決定が難しい方には個々の状況に応じて職員が判断したり、理解できるようにしている。 ・コミュニケーションの中で自己決定の支援はしているがうまく表現できない入居者様もいて希望通りになっていないか不明な点もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・介助がいる方は職員が行うのでご本人のペースに合わせにくい。 ・集団生活のため、食事や入浴など一定の規律の中で支援している。 ・個々の体調や自立の可否によってその方のペースで過ごされたり職員が支援している。 ・起床時間は合わせている方もいるが、それ以外はスタッフがほぼ決めているので困難である。 ・集団生活のため希望に添えないこともある(起床、入浴、食事)。 ・夕食などは入居者様の都合や状態により支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自分でその日の服を選ぶ方もいる。 ・一部の方はご自分でやっているが職員が考え行っている。 ・女性の二人は化粧されている。 ・職員が整髪、洗顔、爪切りなど清潔な身だしなみに気を配っている。 ・訪問美容師を活用している。 ・散髪時には口紅をぬりおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備にはリハビリを兼ね全員関わられるように行っているが年々難しくなっている。 ・旬の食材を生かしたメニューを心がけている。 ・食事作りを共にすることで楽しく触れ合いお手伝いしていただいたら必ず感謝の気持ちを伝えている。 ・入居者様ごとのできることを一緒に調理して頂き、入居者様に合わせてとろみミキサーきざみなどを提供できている。	出来る限り利用者の好きな食事を提供している。菓子パンが好きな利用者が多いため、朝食に出したり、パンバイキングをしたりしている。出された食事が気に召さず食べなかった利用者には、大好きなあんパンと栄養補助ドリンクを提供していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分不足にならないように気を付けている。 ・10時、15時のお茶の時間以外にも、入浴後や散歩後などに折を見て水分を提供している。 ・就寝時に必要な方には個室で水分を提供している。 ・その方に合わせた食事形態で提供している。 ・午前10時にはゼリーとコーヒー、午後にはスポーツドリンクとおやつ、毎食の汁物にお茶と水分量は良いと思う。 ・食事摂取量の少ない方には栄養補助飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・液体歯磨きや洗浄剤を使用している。 ・一人一人に対応した口腔ケアを実施している。 ・毎食後口腔ケアを行っている。 ・義歯外しやうがい困難な方がいる。		

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表に基づいて、定期的に個々に声かけし誘導を実施している。・個々の自立力に合わせ支援している。・自立が難しい方が多くスタッフが管理している。	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。傍らで介助が必要な人以外は、扉の外で見守りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝昼の食後にGH手作りのヨーグルトを提供している。便秘が続いている方にはプルーンを入れて提供している。・散歩や体操を行い、排便を促すようにしている。・便秘の方は下剤を調整しながらおこなっている。・医者からの指示のもと下剤に気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・集団生活のため一人一人の希望にはそえていない。・体調に留意し2日おきに入浴支援をしている。時間は職員の業務の都合により希望にそうことは難しい。	ゆっくり入浴して欲しいとの考えから、1日の入浴支援を少人数で対応している。寒がりの利用者の為に、利用者が温まったと感じる迄、足下をシャワーで温めている。ドライヤーで髪を乾かす際には、体をマッサージしながらドライヤーの熱で温めている。	冬場になるとより一層入浴拒否される利用者の為に、足浴を実施することで下半身が温まると思う。ぜひ実施して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・寝具はチェック表を使用し、定期的に干したり、洗ったりしている。個室の空調に気をくばっている。散歩や体操などで、夜間の安眠に繋がるように支援している。・日中しっかり体を動かしていただく。・散歩や買物、レクリエーションで声かけし支援しているが居眠りされている方もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服用薬一覧表を個人ファイルに保管している。症状の変化に伴い主治医にその都度クスリの依頼をすることがある。・職員間でしっかりチェックし誤薬がないようにしている。・個人ファイルの薬の一覧表を見ている。・服用薬の資料があり変化があれば介護記録に残し全員で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・気分転換できているかどうかかわからないが散歩に出かけている。一部の入居者様は気分転換になっていると思う。・毎日のレクリエーション散歩、地域の方との交流で笑顔も出ているので気分転換になっちるのでは？と思う。・行事への参加、買物、散歩、ドライブしていただき気分転換している。以前は外食をしていたが今はできていない。数回パンバイキングを実施して喜んでいただいた。・地域の行事やサロンに参加している。・調理や洗濯干し掃除などをお願いし感謝の気持ちを伝える。・歌謡や動物のテレビ番組を録画し楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族による外出外泊は対応できているがそれ以外の対応にはなかなか応じられない。・散歩は毎日行っている(個人別チェック表あり)。ウッドデッキのベランダにて隣接する多機能ホームと交流している。毎週ご家族と外出されている方がいる。屋外への行楽などは車イスの方が増えたので困難になっている。・地域の行事に参加するときもある。・オープンスクール花見、外出外泊ドライブ行事など参加される。	事業所は「外出支援」に力を入れ、外出回数を毎月集計し、先月と回数に差が出ないように努めている。時間を見つけては、利用者と一緒に事業所周辺を散歩し、季節を感じるようにしている。また新聞・雑誌等で得た行事情報を基に、利用者へ声を掛け一緒に出掛けている。	

グループホームみたけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在の入居者様は皆様管理できない。必要な物は預り金で購入している。預り金は事業所で管理している。・必要なものは一緒に買い物へ行ったり、代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙は全てご本人に渡しているが電話はなかなか難しい。・入居者様への手紙やハガキはご本人へ渡している。携帯電話を掛けられる方もいる。・電話希望の入居者様にはその都度対応している。・ご家族の希望にそって電話は支援している。ハガキは部屋に飾られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日、共有空間と居室とトイレは掃除している。照明器具や電球を部屋によって変え工夫をしている。・玄関に面するカウンターは季節の飾り付けをしている。・共有空間では不快や混乱がないよう気を付けている。・専門業者によるワックスがけを1年に1回行っている。	ソファの数が6脚しか無かったのを追加で3脚購入し、利用者全員がソファで寛げるようにしている。花が好きな利用者が多い為、出来るだけ花をモチーフにした飾り付けを施している。飾り付けを変更する度に利用者は「綺麗だね」と喜んでくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有空間ではテレビ視聴や音楽を流してリラックスして頂いている。・食卓やソファの席は気の合う入居者様が一緒に座れるように配慮している。・思い思いに過ごせるよう努力はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テレビが必要な方は持ち込まれている。ご家族やペットの写真、誕生日祝いの職員からの色紙などが飾られている。・テレビや雑誌などを部屋でご覧になっている。・馴染みのあるものを持ってきていただく。・居心地よく過ごせる居室づくりを心がけている。	居室はそれぞれの利用者にあった部屋作りの支援に努めている。家族が子ども、孫、ひ孫等の写真を持ち込み、壁いっぱい飾っている居室もある。また、目に付く場所に何か物があると落ち着いて眠ることが出来ない利用者の居室は、物を置かないように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ご自分でできるよう声かけ(トイレなど)に気を配っているが意欲の低下した入居者様が多く介助している。・トイレと洗面は各個室に完備している。転倒防止のため、夜間はセンサーライトを設置し、安全な自立支援に努めている。・ベッドの位置は状況に応じて細やかに変更している。転倒リスクの高い方は床に衝撃吸収のカーペットを敷いたり壁や手すりをスポンジで覆うなどの対策をしている。・スタッフが見守りながら「できること」「わかること」は入居者様にしてもらっている。		